

# 令和6年度 小平市立小平第四中学校 学校評価報告書

## 学校教育目標

**目指す学校像(ビジョン)**  
 【目指す学校像】 「安全・安心で、挨拶と笑顔があふれ、生徒と教職員、保護者、地域が力を合わせて創り上げる、チーム四中」 ①秩序と潤い ②いじめ根絶・学力・防災 ③伝統・創造・信頼  
 【目指す児童・生徒像】 「自信と誇りをもち、仲間を大切に、社会に貢献する生徒」 ①基礎基本・自尊心・主体的行動 ②他者理解・共生 ③道徳的な判断力・心情・実践力と態度  
 【目指す教員像】 「率先して正しい姿を示し、生徒に寄り添い、共に成長し、よりよい教育を求め続ける教師」 ①共感的な姿勢・個に応じた指導 ②高い人権意識 ③保護者及び地域との連携

**前年度までの学校経営上の成果と課題**  
 成果： 学力向上  GIGAスクールの推進  不登校支援・カルガモ教室の充実  特別支援の充実  よりよい学級づくり  いじめ防止  地域人材の活用  防災学習  
 課題： 学習者用端末の効果的活用  SDGs・ESDの推進  不登校支援・カルガモ教室の充実  特別支援の充実  ボランティア活動  地域連携  業務改善  人材育成

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
GIGA 学力 向上 スクール	GIGA推進委員会の授業実践に学び、全教員が学習者用端末及び授業支援システムを効果的に活用した授業を行う。	3	3	・授業における学習者用端末の活用が推進(76%)されたが授業支援システムの活用が少なかった。 ・デジタルドリルの無償での試行期間を活用し、令和7年度の導入について検討する。	3	4	・学習者用端末の授業での活用が推進されている。 ・様々な学習教室は主体的な学習のきっかけとなるので、参加を学校で(教員が)呼びかけた方がよい。 ・自主的な学習を支援するためには、学習教室に教員が顔を出すと効果がある。	・授業での学習者用端末の効果的な活用が推進されるとともに、学習課題や連絡事項の生徒への配信も増えた。 ・デジタルドリルを導入し、主体的な学習及び基礎の定着、自宅での学習者用端末の効果的な活用を推進する。
	学び直し教室で小学校算数の定着を図るとともに、英語を話すことに慣れさせる。放課後学習教室で主体的に学習に取り組ませる。	3	3	・数学(算数)の学び直し教室は利用者が多く、効果が見られた。英語については内容を検討する。 ・定期考査前及び夏季休業中の放課後学習教室の利用者が減少した。	2	2		・学び直し教室では、数学(算数)は基礎の定着に効果があった。英語は生徒の意欲を高める内容に改善を図る。 ・放課後学習教室を効果的に運用できるよう、地域教育コーディネーターとの連携を深め、協働活動を推進する。
いじめ 防止	学級PRやエンカウンターを活用してよりよい学級をつくる。ローテーション道徳及び地域と連携し道徳授業地区公開講座を実施する。	4	4	・よりよい学級づくりに91%の生徒が取り組み、89%が学級目標が達成できていると認識している。 ・道徳授業地区公開講座では、生徒及び保護者、地域の積極的な意見交換ができた。	4	4	・子どもの権利条約及び子ども基本法の視点で心の教育を推進することも大切である。 ・道徳授業地区公開講座では、生徒だけでなく、保護者や地域の意見交流ができた。	・エンカウンターや話し合いを効果的に活用し、よりよい学級づくりを実践した。生徒の主体的な活動を推進する。 ・道徳授業地区公開講座への保護者及び地域住民の参加が増え、有意義な意見交換会を行うことができた。
	いじめチェックとアンケートを学期に1回ずつ実施する。児童会・生徒会サミットの取組を効果的に活用する。hyper-QUを分析する。	4	4	・定期的な早期発見の取組により、数件のいじめにつながる事案を発見し、適切に対応することができた。 ・いじめ防止の取組を理解している生徒は87%で、保護者は66%だった。保護者の理解促進を図りたい。	4	4	・いじめ防止について学校はしっかり取り組んでいると思うが、情報発信が必要である。	・「軽微ないじめも見逃さない」という基本方針に基づき、組織的にいじめ防止に取り組むことができた。また、22件のいじめを認知したが、適切に対応し解決することができた。 ・学校の取組を保護者や生徒に積極的に発信する。
多様な 学びの 場の 充実	カルガモ教室において、SSTや道徳、ボランティア、作業療法、学び直し等のプログラムを設定し、支援を充実する。	4	4	・カルガモ教室において、多様な学びのプログラムを実施し、SSTや作業療法はとても効果的であった。内容と人的配置について検討が必要である。	4	4	・カルガモ教室の存在は大切で、子どもたちは恵まれている。さらに発展させていってほしい。 ・多様な学びのプログラムに、CSの人材ネットワークが効果的に活用されている。	・不登校生徒の教室復帰や不安を抱える生徒の安定を図るために、カルガモ教室を運用し、組織的な支援ができた。 ・不登校について、教員及び保護者の理解を深めるとともに、情報共有や意見交換する場を定期的に設定していく。
	研修会を実施して教員の理解を深めるとともに、連携型個別指導計画に基づいて、合理的配慮等の支援を充実する。	4	4	・特別支援教育の研修を通して、個別指導計画の作成について、担任の理解が深まった。 ・合理的配慮について、学級によって差がでないよう、校内委員会で検討し、対応をそえる。	4	4		・支援が必要な生徒に対して、合理的配慮(定期考査、別室、ICT)を実施し、組織的に対応することができた。 ・一斉授業が困難なために登校できない生徒について、関係機関や小学校とも連携し保護者にアプローチする。
働き方 改善	出退勤システムを活用して勤務時間を適正に管理し、在校時間が長い教職員の心と体をサポートする。	3	2	・部活動の週3日休養日を推奨しているが、あまり活用されていない。 ・70%の教員が月2回の定時退勤ができています。月の時間外在校時間45時間以上の教員が40%いる。	3	2	・教員のライフワークバランスに配慮し、余裕をもって業務ができるようになるという。 ・教員が定時退勤できる環境は望ましいと思う。	・月2回の定時退勤及び時間外在校時間45時間を80%以上の教員が実践できるよう、積極的に働きかける。 ・時差勤務や育児等取得の意義について周知し、ライフワークバランスを意識した働き方が広がっている。
	印刷や配布等の作業をSSSに依頼する。学習支援に学習補助員やボランティアを活用する。行事運営の補助をPTAに依頼する。	3	3	・SSSは概ね効果的に活用できているが、活用する教員に偏りがあるので、幅広く計画的に活用する。 ・学習補助員を特別支援に効果的に活用したい。 ・学校公開ではPTAの協力を得ることができた。	3	3	・教員の時間外在校時間をきちんと把握しておくことは、管理職にとって大切なことである。	・事務的な作業にSSSを積極的に活用し業務を軽減するとともに、支援が必要な生徒への対応に学習補助員や学生ボランティアを任用し生活と学習の充実を図った。 ・地域人材の発掘と効果的な活用をさらに推進する。
地域 連携	教職員及び生徒、地域の意見を取り入れながら、生徒像と学校像について検討を重ね、学校教育目標を改定し、校訓を制定する。	4	4	・校訓及び学校教育目標について、教職員及びCS学校経営協議会で検討することができた。	4	4	・新しい学校教育目標は、意識調査により、関わる人たちの意見が基となっており、分かりやすい。校訓とともに、関係者に説明し周知する場を設定する必要がある。	・学校教育目標の改定にあたり、行動がイメージできる具体的で浸透しやすい目標『正しく学び、自他を尊重し、たくましく生きる力育み、ふるさとと共に歩む』ができた。 ・生徒及び保護者、地域と、生徒像や学校像を共有する。
	地域学校協働活動を推進し、学習補助、学習教室、職業講話、防災学習、ボランティア活動等を実施する。	2	2	・CS学校経営協議会を3回開催した。 ・地域教育コーディネーターと連携し、実技教科の補助など地域学校協働活動を推進している。 ・地域と連携した防災訓練を計画している。	4	4		・防災危機管理課及び消防署、自衛隊、自治会と連携した防災訓練を実施することができた。今後も継続する。 ・地域の協力を得て職場体験や職業講話、授業補助を充実し、生徒会や部活動との新しい地域連携の形もできた。